



福島林業

No. **604**



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

12 2014

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■炭 焼 き



「被災した海岸防災林復興 コンテナマツ植栽はじまる」

福島県農林種苗農業協同組合

組合長 野尻 榮一

平成二三年三月十一日に発生した東日本大震災からもうすぐ四年を迎えようとしています。高さ二〇メートル超の津波は、海岸防災林のみどりの防波堤では押しとどめることができませんでしたが、津波のエネルギーを軽減させる等の減災効果を発揮しました。

津波により福島県の海岸林の六割が消滅したみどりの防波堤を、国と県は幅二〇メートルの防災林を整備する復旧・再生に着手し、今年、関東森林管理局磐城森林管理署が復興事業を進めている相馬市松川浦国有林において、植栽事業が開始される運びとなり、松川浦「大洲国有林」において海岸防災林復興祈念植栽が行われ相馬市立磯部幼稚園、磯部小学校などの関係者約一五〇名が参加して、苗木の順調な生育や防災林の復興と永続などを祈念し、県苗協組合員が三年間手塩にかけて育てた抵抗性クロマツ苗木六〇〇本を植栽しました。

また、植栽された苗木は、公益財団法人ヤマト福祉財団が実施する「東日本大震災生活・産業基盤復興・再生助成事業」の一つ緑地創造研究会・苗木プロジェクト共同企業体により提供された抵抗性クロマツ苗木です。

この植栽事業は、阿武隈高原から太平洋に注ぐ河口にできた大きな干潟で、古くは万葉集にもうたわれた大洲や中州には防風林や防潮林としてクロマツが植栽され、河口に広がるあし原と肥沃な干潟は貴重な植物や野鳥の宝庫であった松川浦自然公園の風景「くناقかしい緑を未来につなげよう」を理念のもと、単なる苗木等の供給に留まらず相馬市の生産者たちが中心となり、苗木生産を通じて地域復興として広がりのある事業としてヤマト福祉財団の支援を受けることができました。

これまで、海岸防災林に必要なマツ苗種子を安定的に供給するため採種園を福島県林業研究センター内に、抵抗性クロマツ苗の母樹苗木二〇〇〇本を東京農業大学などの協力を得て整備されました。今後、県苗協はここから取れた種子でマツ苗木を、当組合員一丸となり海岸防災林のみどりを築くマツ苗の供給に努めますので、なお一層の御支援、御協力をお願い致しますとともに、迎える新年も皆様方にとってすばらしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。

《も く じ》

とびら	平成26年度福島県きのこ品評会……………	7
「被災した海岸防災林復興コンテナマツ植栽はじまる」	森と生きる	
福島県農林種苗農業協同組合	「もりの案内人の役割」……………	8
組合長 野尻 榮一……………	普及指導員通信……………	9
第39回福島県林業祭開催……………	森林土木技術研修会……………	10
第11回ふくしま森林・林業写真コンクール ……	公社だより……………	11
第65回福島県学校関係緑化コンクール ……	木材市況・派遣職員メッセージ……………	12
第17回福島県森林組合連合会良質材展示会開催 ……	はなしのひろば……………	13

第三九回福島県林業祭開催

福島県林業振興課

福島県林業祭（林業復興応援イベント）は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による被害の克服をめざした取り組みの状況をお知らせし、併せて森林・林業の再生に対する県民意識の醸成を図ることを目的に、十月二十五日、二十六日の両日にわたって、郡山市の県林業研究センターを会場に開催されました。

に、より近づいた開催となりました。二十五日十時より、本館前にて開会式が行われ、畠利行福島県林業祭実行委員会委員長のあいさつに続いて、テープカットが行われ、鹿狼アルプホルン倶楽部のファンファーレにより、第三九回福島県林業祭が始まりました。

【イベント】

本館前では、開会式に引き続き鹿狼アルプホルン倶楽部の「森のコンサート」が行われ、二六日にはブラ



開会のテープカット



鹿狼アルプホルン倶楽部



ブラスアンサンブル輝響

スアンサンブル輝響の演奏が森の中に響き渡り、観客のみなさんを魅了していました。

ライシーホワイトとのじゃんけんゲームやマルシェ福島号の試食体験も行われ、「スタンプリアー抽選」では、各会場を巡った方がくじを引いて、その結果に一喜一憂していました。

二六日午後の「森のオークション」では、前日のチェーンソーアワードで製作された作品をはじめ、通常販売されていないような特注品も出品され、次々と競り落とされています。なお、落札代金の一部は、後日、緑の募金に寄付されました。

展示館裏に作られた県産材の小屋組では、「模擬上棟式」が二日間



模擬上棟式

四回行われ、大勢の人たちが餅まきを競い合うように体験し、楽しい声が響き渡りました。研修本館では、併催行事きのこ復興まつりのイベントとして「きのこ料理教室」が二日間開かれ、たくさんの方がメモを取りながら、講師の宗像カツ子氏の説明に聞き入っていました。

「きのこ品評会出品物販売」も行われ、普段スーパーでは見ることのないような贈答用の大きなきのこが手ごろな価格で提供されていました。

多目的広場では、二五日は、「チェーンソーアートショー」が二回行われ、丸太から生み出される動物たちの大胆で繊細な造形に観客が見入っていました。

二六日には、「第五回福島県チェーンソー選手権」が開催され、県内の五団体が出場し、個人競技も併せて、四種類の競技で、安全はもちろん、速さや正確さを競い合いながら、真剣に取り組んでいました。競技終了後、本館前に移動し、林業祭最後のイベントとして表彰式が行われ、各種目の上位入賞者が表彰され、参加した仲間の方や来場者から



チェーンソーアートショー



きのこ料理教室



林業関係表彰式

二六日には、「林業復興講演会」がホテルバーデンを会場に開催され、講師の岡田秀二岩手大学農学部教授より、「森林・林業の再生に向けて」の演題で講演をいただき、「森林文化」をキーワードとした取り組みが提唱され、参加した約一〇〇名の方々が熱心に聴講していました。

たくさん拍手が送られていました。また、二五日には、「平成二六年度福島県林業関係表彰式」が郡山市立安積第三小学校体育館で開催され、第六回福島県学校関係緑化コンクール、第十七回福島県森林組合連合会良質材展示会、福島県きのこ品評会、第十一回ふくしま森林・林業写真コンクールの五六件が表彰されたほか、長年指導林家として活動された安部豊氏へ知事感謝状が贈られました。

本館前通路では、農林産物、農林産物加工品、木工品、漆器等の展示・販売が行われました。研修本館では、震災からの様々な復興活動、復興住宅モデル、林野庁での森林環境モニタリング、木材やきのこの安全・安心などに関するパネル展示、小枝クラフトや森のリース、木のおもちゃワークショップな

本館前では、県産米消費拡大や福島おいしい大賞のPRや農林産物の加工品など六次化商品の販売と県産農林水産物を活かした飲食コーナーが設けられました。展示館裏では、平成三〇年開催の全国植樹祭PRをはじめ、木の枝クラフト、丸太切り体験、いす作り、竹細工体験などの木工工作コーナーが設けられました。

【展示・販売等】



林業復興講演会



研修本館内

今後の森林・林業関係者が一体となり、森林・林業・木材産業の復興、活性化に向け活動していくことが大切だと感じた二日間でした。

実行委員会スタッフはもとより、出展関係者、出演者など皆様の御協力により、二日間事故も無く実施することが出来ました。今後も森林・林業関係者が一体となり、森林・林業・木材産業の復興、活性化に向け活動していくことが大切だと感じた二日間でした。

どの各種体験コーナーの外、林業就業や緑に関する相談コーナーも設けられました。なお、森林所有者経営相談会もきのこ振興センター会議室で開催されました。

研修本館前では、県産きのこ、木工品、農産物、多目的広場では、林業機械やペレットストーブ等の展示販売など、多くのコーナーが設けられました。

ふくしま森林・林業写真コンクール

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

◇はじめに

当協会では、森林整備の推進と森林・林業の振興に資するため、毎年度森林・林業写真コンクールを開催しています。

本年度は、東日本大震災と原子力事故で森林を取り巻く環境が大きく変化していることから、森林と人との絆を取り戻し、緑豊かなふるさとの新生を発信するため、森林・木材との関わりや森林整備作業などをテーマとした作品を広く募集しました。

◇応募状況

福島県内の森林・林業を撮影地とした自作の未発表の作品を応募要件として、平成26年6月19日から9月19日までの間募集したところ、県内各地、さらには県外で避難を余儀なくされている方からも応募があり、応募人数は45人、応募作品数は78点となりました。

◇審査結果

10月3日、県写真連盟高橋様を審査委員長に、森林・林業・木材との関わりという趣旨に沿ってテーマが明確に表現されているか、表現力に優れているかなどについて、適切かつ公平に審査した結果、入賞作品が決定しました。

◇表彰等

入賞作品については、第39回福島県林業祭の一環として、郡山市立安積第三小学校において表彰式を行うとともに、福島県林業祭開催期間中会場に展示しました。

なお、今後「林業福島」の表紙に適宜掲載する予定です。



◇結びに

ご応募いただきました作品は、ふくしまの美しい森林への憧憬や魅力ある林業への想いが伝わってくる優れた作品ばかりであります。

当協会では、「豊かで活力ある森林を次の世代へ」引き継いで行けるよう全力で各種事業を展開してまいりますので、より一層のご支援ご協力をお願いいたします。



福島県林業祭で展示

最優秀賞、優秀賞及び特別賞の入賞者

賞の種類		入賞者		
区分	賞名	市町村	氏名	題名
最優秀賞	福島県知事賞	福島市	坂野井 忍	馬搬
優秀賞	公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会長賞	郡山市	藤田 一成	新月伐採作業
		郡山市	佐藤 源策	木に親しむ
		白河市	近藤 広章	自然になじむ治山ダム
特別賞	一般財団法人 福島県林業会館理事長賞	郡山市	小田島守明	炭焼き

第六五回 福島県学校関係緑化コンクール

福島県 森林保全課

○福島県学校関係緑化コンクールとは

「福島県学校関係緑化コンクール」は、児童・生徒の緑化活動及び学校における環境教育の一層の推進を図るために毎年行われています。

本コンクールには三つの部門（学校林等活動の部、学校環境緑化の部、協力者の部）があり、それぞれ各地域の農林事務所・教育事務所から推薦され、現地調査を行います。

(1) 学校林等活動の部

この部門は、森林を計画的かつ組織的に活用し、児童・生徒の緑化に関する教育や体験学習を通じて教育効果をあげた学校を審査する部門です。

(2) 学校環境緑化の部

この部門は、児童・生徒による計画的かつ組織的な環境緑化を進め、優秀な環境緑化の実績や、教育効果をあげた学校を審査する部門です。

(3) 協力者の部

この部門は、学校に係る緑化活動に特に功績（おおむね五年

以上の活動継続）があり推薦された個人又は団体を審査する部門です。

各部門に推薦された学校等は、現地調査後、県審査委員会によって審査され、審査の結果最優秀の成績（県知事賞等）を修めた学校等については国土緑化推進機構が実施する「全日本学校関係緑化コンクール」へと推薦されます。

○平成二六年度第六五回

福島県学校関係緑化コンクール

今年で第六五回を迎えた福島県学校関係緑化コンクールでは、学校環境緑化の部で、小学校と中学校を合わせて十校が受賞しました。最優秀賞となった学校は次のとおりです。

(1) 学校環境緑化の部（小学校）

伊達市立富成小学校・県知事

賞・福島民友新聞社社長賞を受賞

(2) 学校環境緑化の部（中学校）

いわき市立永井中学校・県知事

賞・福島民報新聞社社長賞を受賞

最優秀賞を受賞したこの二校は

「全日本学校関係緑化コンクール」に推薦されました。この二校の活動

について御紹介します。

(1) 学校環境緑化の部（小学校）

富成小学校では、地域の方に生徒自身で育てた花とともに感謝の気持ちと笑顔を届ける「花いっぱい活動」や、学校の周りでの苗木の植樹や森林の観察を通して、生徒に森林の働きについて考えさせることで森林の大切さを知ってもらう「森林体験学習」など、緑の少年団の活動を軸に、保護者や地域の方の理解も得ながら、友達や自然への思いやりの心を育成するための活動を行っています。



森林体験学習



花いっぱい活動

(2) 学校環境緑化の部（中学校）

永井中学校では、「花咲くことを疑わず、信じて育てる」という教育理念のもと、学校の花壇以外にも、プランターや鉢なども活用して校舎内外の美化・緑化に努め、地域の方に栽培した花の種の配布や、学校・家庭・地域が連携したボランティア活動や環境整備活動等、学校が地域

コミュニティの中心となるような活動をしています。



森林環境学習



花壇作成

○これからに向けて

本県では、当コンクールを含め、緑化や子どもたちの環境教育に関する取組を行っていますが、震災後は参加人数や参加校数が減少しております。

こうした中で、緑豊かな森林の再生や、全国からの復興支援への感謝の気持ちを広く発信するシンボル事業として全国植樹祭の招致に取り組みんでおり、去る平成二六年八月八日に（公社）国土緑化推進機構から「平成三〇年第六九回全国植樹祭」の本県開催の内定をいただきました。この全国植樹祭を盛り上げていくためにも、各種緑化コンクールを始め、緑化に関する取組に子どもたちが参加し、活動を継続していただけるよう、取組を行っていただきたいと思います。

第十七回福島県森林組合連合会 良質材展示会

去る十月十七日、いわき木材流通センターにおいて、「第十七回福島県森林組合連合会良質材展示会」(センター平成八年開設)を開催いたしました。

この行事は、林野庁、関東森林管理局、福島県、福島県木材協同組合連合会からの御後援をいただき、毎年当センターの記念市と同時に開催し、育林技術や造材技術の各項目ごとの評価審査に基づいて、各賞を決定しており、生産技術の改善向上と商品価値を高め、森林組合共販材の優秀性を広く紹介すること、また木材需給の安定に寄与することを目的に開催回数を重ねてまいりました。

展示会を開催し続けてこられましたのも、当センターをご利用いただいております出荷者、買方者の御協力並びに関係機関の御指導・御協力があつたのと、この場をお借りし改めて感謝申し上げます。



第17回福島県森林組合連合会良質材展示会



林野庁長官賞



福島県知事賞

審査は、福島県、福島県木材協同組合連合会、買方者代表の方々へ御協力をいただき、県森連職員を含む計五名の委員が審査を行いました。では、展示会(審査)の概要と各賞の受賞者を御紹介させていただきます。

審査のながれ

第一次審査 出品物の搬入時にいるか、材の数量規定を満たしているか、造材技術や商品価値などを主な審査項目としております。

審査結果(表2)

第二次審査 第一次審査を経た材について、審査項目(表1)により、各賞が決定されます。

結びに

福島県では、平成二五年度より「ふくしま森林再生事業」による森林整備が進められておりますが、未だに福島第一原子力発電所事故による影響があり、そのため販売面からも難しい現状にあります。森林組合系統の一木材市場として、今後も消費者のみなさまに福島県産材を「安心」してお求めいただけるよう、取扱体制の強化に全力で努めてまいりますので、今後も当センターを御利用くださいますようお願いいたします。

(表1)

審査項目	審査対象
育林技術	節の有無・大小
	年輪幅
	材の曲がり
	材のまる身・偏心
造材技術	材の光沢・色彩
	枝はらい
	材の切断面
総合	商品価値・市場性
	延寸

(表2) 受賞者紹介

	受賞者名	産出	樹種	長級(m)	径級(cm)
林野庁長官賞	磐城造林株式会社	いわき市	スギ	4.00	50~54
福島県知事賞	田村森林組合	田村市	スギ	4.00	30~38
関東森林管理局長賞	緑川農林 緑川 平隆	いわき市	スギ	4.00	44~48
県木材協同組合連合会長賞	石嶋商事 石嶋美智男	田村市	赤松	4.00	30~38
県木材協同組合連合会長賞	阿部 一郎	いわき市	スギ	4.00	40~44
県森林組合連合会長賞	ふくしま中央森林組合 石川岩瀬事業所石川事務所	石川町	スギ	3.65	40
県森林組合連合会長賞	常磐林業株式会社	いわき市	スギ	4.00	42
県森林組合連合会長賞	安田林業株式会社	大玉村	スギ	3.65	24~32

平成26年度 福島県きのこ品評会

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 きのこ振興センター

里山が紅や黄色に染まる10月25日(土)、26日(日)の二日間、郡山市の福島県林業研究センターにおいて、第39回福島県林業祭が開催されました。それにあわせて、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会が主催し「福島県きのこ復興まつり」を開催しました。

本県の「きのこ」を取り巻く環境は、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響などにより非常に厳しい状況がいまもなお続いています。しかし、そのような中で、「福島県きのこ復興まつり」は、従来の「福島県きのこまつり」から名を改め、また主催を福島県きのこ振興協議会から当協会が引継ぎ、県産きのこの復興を目指して四年ぶりに開催いたしました。

そのメインイベントである「きのこ品評会」は、生シイタケ75点、ナメコ・ヒラタケ37点など総数120点の出品があり、優秀出品物には、林野庁長官賞を筆頭に各賞が授与されました。そして25日(土)に郡山市立安積第三小学校にて、受賞生産者に対して表彰式が行われました。

今回は震災前の平均出品数140点と比較して、出品数は若干減少したものの、技術的に高い出品物、新たに異なる品目の栽培に取り組んだ生産者からの出品や真剣な眼差しで出品物を視察する生産者もみられ、厳しい状況のなかでも一歩ずつ前に進んでいることと、生産者の復興への熱い意気込みを感じました。

本年開催の「福島県きのこ復興まつり」は四年ぶりの開催でしたが、来年はさらに品評会の出品物が増えて販やかになり、福島県産のきのこが着実に復興に向かっている実感を得られる機会となることを願っています。そのために、当協会では今後も「福島県きのこ復興まつり」や各種事業を通して、県産きのこの生産から消費拡大までのPRを行ってまいりますので、一層のご支援をお願い申し上げます。



平成26年 きのこ品評会出品数内訳

	原木しいたけ	菌床しいたけ	乾しいたけ
出品数	23	52	6
	なめこ・ひらたけ	参考出品(点)	
出品数	37	2	



《受賞者名簿》

●生しいたけの部

林野庁長官賞(菌床栽培) 小椋 兵一(郡山市)

○原木栽培部門

福島県知事賞 沖間 富男(会津美里町)

福島民報社長賞 國分 進(本宮市)

(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞 古川 安元(郡山市)

全国農業協同組合連合会福島県本部長賞 古川 政善(郡山市)

福島県きのこ振興協議会長賞 青戸 博幸(塙町)

○菌床栽培部門

福島県知事賞 大野 一宏(天栄村)

福島民友新聞社長賞 芳賀 敏(中島村)

(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞 有限会社遠藤きのこ園(川内村)

福島県農業協同組合中央会長賞 高久 一志(西会津町)

全国農業協同組合連合会福島県本部長賞 円谷 康夫(泉崎村)

福島県きのこ振興協議会長賞 松木庄太郎(会津美里町)

●乾しいたけの部

福島県知事賞 山田 誠(福島市)

(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞 遠藤 充孝(磐梯町)

福島県きのこ振興協議会長賞 大森 靖(矢祭町)

●なめこ・ひらたけの部

林野庁長官賞 有限会社すずき農園(いわき市)

福島県知事賞 古川 安元(郡山市)

(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞 新國 録也(会津若松市)

福島県森林組合連合会会長賞 武藤 一夫(二本松市)

福島県きのこ振興協議会長賞 齋藤 善夫(伊達市)

福島県きのこ産地化推進協議会長賞 里の森みらい(須賀川市)

敬称略



「森と生きる」

もりの案内人の役割
NPO法人福島県もりの案内人の会
会津支部長 渡部圭介

福島県は森林面積が県土の七一割と多く、森が身近にあります。身近にあるかと言って森を理解しているのかは疑問です?!外から見るだけでは森や自然を理解することはなかなか出来ないと思います。

同じ「みる」でも観る、観察することが大事だと思います。植物、昆虫、鳥類、キノコ：等いろんな生き物が生息して森は成り立っています。「もりの案内人の会・会津支部」は、それらの生き物の観察会などを行い少しでも自然を理解して頂きたいと思っています。花は綺麗に咲いて誰にアピールしているの？木の美



が赤いのはどうして？茶色になるのはどうして？やキノコの役割等等など。その他にも、間伐材などを使用し木の枝クラフトを行い、木のぬくもりを感じて頂き自然に親しんでもらったりしています。でも、まだまだ「森と生きる」には程遠いと思います。森を理解しているつもりでも、それはほんの一部であり、先人の自然との共生として、森を怖れたり、敬ったり、親しんだり生活のなかに取り入れたりしていないように思われます。

もりの案内人の会・会津支部では、毎年一〇〇件ほどの自然観察会や木の枝クラフト教室を各種学校や公民館などの依頼を受けて実施しておりますし、地域交流事業として会津地域の一般の方々と同様の自然観察会と木の枝クラフトなどのイベントを実施しております。

先人の遺した伝統を受け継ぎ後世に伝えていくために「もりの案内人」は、もっと視野を広げ、貪欲に知識を得て、それらを活かし県民に「森との橋渡し」をする使命が有るのではないかと思います。

出荷管理状況調査（県北編）

■県北農林事務所

林業普及指導員 新津 修

秋の野生きのこの発生時期に、県北農林事務所森林林業部が、企画部・農業振興普及部・伊達農業普及所、安達農業普及所の協力のもとで実施した、直売所等のきのこの出荷管理状況調査の内容について紹介します。

普及指導員の仕事の中には、相手先を訪問し話を伺うことが数多くありますが、訪ねて行って喜ばれる場合とあまり喜ばれない場合があるようです。出荷管理状況調査は、どちらかと言えば後者ということになるかもしれません。

直売所やスーパーの店頭へ赴き店長や責任者に説明し、店頭へ並んでいるきのこの産地等の表示をチェックさせてもらうということで、店側の立場から言うと、「招かれざる客」となっているのでしょうか。まして、出荷制限がかかっているきのこや、表示に不備のあるきのこが見つければ、是正するように伝えなければなりません。



きのこの販売状況

今回の調査期間は、野生のきのこが発生し始めた9月24日から延べ31人が、174箇所の調査を行いました。調査は県北管内3JA毎に班を編成して行いました。新ふくしま管内は、森林林業部と振興普及部又は企画部、伊達みらい管内は森林林業部と伊達普及所、みちのく安達管内は森林林業部と安達普及所が調査を行いました。春まで出荷管理状況調査を実施してきた直売所に加え、集荷場・スーパーも調査対象としたため調査箇所が大幅に増え、大がかりな調査となりました。

調査の結果、流通・販売が認められていないきのこの販売は、幸いありませんでしたが、表示方法等に改善の必要がある商品が確認され、店舗責任者に是正を求めたものが数件ありました。調査は比較的順調に推移し、10月10日には予定した全ての店舗の調査を終えることができました。

今回は、秋期ということできのこの調査でしたが、来春は山菜の出回る時期にまた同様の調査を行うこととなります。われわれ行政側としては、昨年出荷制限がかかっていたものは、解除にならない限り、今年も出荷制限がかかっているということが当たり前となっていますが、世間一般では、去年は去年、今年は今という考えの人もいるようです。

そこで、出荷制限品目をわかりやすくした『きのこ・山菜の出荷制限について』を活用しながら、出荷制限のかかった山菜・きのこが直売所、スーパーマーケットに並ぶことがないように指導しています。このチラシは、出荷制限のかかった市町村が解りづらいという直売所等の意見に応じて、県北農林事務所森林林業部が作成したもので、品目毎にどの市町村が制限がかかっているかが一般の人が見てもわかるように表にしたものです。当初は出荷可能が○と出荷制限が×としていましたが、きのこ・山菜については、出荷前にモニタリングを行うということで最終的には出荷可能の○を△に換え、出荷制限を×としました。今までも何度か表示方法を変えましたが、今後もより見やすく、わかりやすくなるように改良をしていきたいと思っております。

きのこ・山菜の出荷制限について

別紙1

平成26年9月18日現在、県北地方において、出荷制限（自粛）がかかっているきのこ・山菜は、次の品目です。

区分	品目	条件等	福島市	二本松市	伊達市	本宮市	桑折町	国見町	川俣町	大玉村
きのこ	原木しいたけ	露地栽培	×	×	×	×	△	△	×	△
		施設栽培	△	△	×	△	△	△	×	△
	野生きのこ	すべての野生きのこ	×	×	×	×	×	×	×	×
果実	あけび		△	△	×	△	△	△	△	△
	くさそでつ（ごごみ）	栽培・野生	×	×	×	△	×	×	×	×
山菜	たけのこ	栽培・野生	×	×	×	×	×	△	×	×
	ふきのとう	栽培	△	△	△	△	△	△	△	△
		野生	×	△	×	△	×	×	×	△
	ぜんまい	栽培	△	×	△	△	△	△	×	×
		野生	△	×	△	△	△	△	×	×
	たらの芽	栽培	△	△	△	△	△	△	△	△
		野生	×	×	×	×	×	×	×	×
	わらび	栽培	×	×	×	△	△	△	×	△
		野生	×	×	×	△	△	△	×	△
	こしあぶら	栽培・野生	×	×	×	×	×	×	×	×
	ふき	栽培	△	△	△	△	△	△	△	△
		野生	△	△	△	△	×	△	△	△
	うわばみそう	栽培	△	△	△	△	△	△	△	△
		野生	△	△	△	△	△	×	△	△
さんしょう	栽培・野生	△	△	△	△	△	△	△	△	
うど	栽培・野生	△	△	△	△	△	△	△	△	
ねまがりたけ	栽培・野生	△	△	△	△	△	△	△	△	
もみじがさ（しどけ）	栽培・野生	△	△	△	△	△	△	△	△	
みやまいらくさ（あいこ）	栽培・野生	△	△	△	△	△	△	△	△	
おおぼぎぼうし（うらい）	栽培・野生	△	△	△	△	△	△	△	△	

1 表内の記号などの説明

- ×について
 - 原子力災害対策特別措置法による出荷制限または県の出荷自粛要請によるもので、今後変更される場合があります。
 - これらのきのこ・山菜は、出荷・販売を行わないでください。
 - 自主的検査による測定結果が100ペクレル/kg以下であっても、出荷・販売はできません。
- ×※について
 - 伊達市の原木しいたけ（施設栽培）については、出荷制限が解除された3生産者のみ出荷可能となります。
- △について
 - 出荷前にモニタリング検査を実施します。
 - 栽培きのこの場合には、生産者ごとに生産資材と発生したきのこの検査を実施します。
- 栽培と野生について
 - 山菜の「栽培」とは、「栽培」に該当する生産物であることが県により確認されたものです。それ以外は「野生」となります。

2 きのこと山菜の表示方法

- 出荷制限がかかっていない品目であることを必ず確認のうえ、表示願います。
- 「きのこ」は、露地栽培・施設栽培、「山菜」は栽培・野生の別を表示してください。
- 「産地」は、市町村まで表示してください。

福島県北農林事務所 森林林業部

電話：024-535-0323・535-0483

FAX：024-536-9590

福島県森林土木建設業協会

森林土木技術研修会の実施について

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林土木建設業協会では去る九月二十九日・三十日の二日間、栃木県日光市において、治山事業に係る現地研修会を関東森林管理局日光森林管理署のご協力を得て実施しました。

この研修は、林野庁が昨年「後世に伝えるべき治山」よみがえる緑」として選定した治山施工地を視察し、治山事業の歴史や様々な治山工法を学び、森林土木技術者としての資質向上を図ることを目的に実施するもので、今回は、会員企業から十五名、またアドバイザーとして福島県及び（公社）福島県森林・林業・緑化協会から四名など計二十一名が参加しました。

研修初日、日光管理署を訪問し研修（座学）を行いました。

下堂署長から管内概要、また、担当官から視察先の「男体山民有林直轄治山事業」、翌日の「足尾国有林治山事業」についてそれぞれ説明を受け、男体山の過去の災害の歴史、薙（なぎ）と呼ばれる長大な侵食谷の復旧事業等、また足尾については、銅山とそれに関連する森林崩壊の歴史、土までも失った山に、土をつくることからはじめ、草木の種まき、苗木を植える、世界でも類を見ないといわれる緑化、森林の再生事業とその工法等について学び理解を深めました。

その後の現地視察では、男体山（二、四八六メートル）をいろは坂「明智平展望台」から望み、山頂から放射状に伸びる複数の長大薙とそれに沿って土砂流出を防ぐため設置された多数の治山施設、回復した緑化の状況を確認するとともに、中禅寺湖畔から林道経由で山中に入った「太平薙」、「白薙」では階段状に設置した谷止工等治山施設を見て回りました。

翌日の足尾では、銅山の歴史、森林破壊等の文獻・写真等を展示紹介する足尾環境学習センター始め、大火（明治二〇年）で一、一〇〇畝の国有林が焼失し現在も緑化が進められている松木地区等を視察しました。



太平薙・白薙治山施設視察

ここでは、銅の精錬などに伴う過伐や煙害による森林被害、また、大火によって生み出された広大な荒地が、植生盤を使用した山腹工やヘリコプターによる実播工など様々な工法を導入し、着実に緑化が進められ、見事に環境が回復されていることに驚くとともに、その間の先人達の苦勞が伝わってきました。

さて、わが国の治山事業は、その実施から一〇〇年を迎えております。治山事業は、山地災害から国民の生命・財産を守るうえで極めて重要です。

今回の研修は、その重要性を再確認するうえで有意義で、研修の所期の目的は概ね達成できたのではと思えます。

終わりに、現地研修全般にわたりご指導を賜りました日光森林管理署長様はじめ職員の皆様にご礼申し上げます。



自然が回復した松木地区左岸の状況

2015年農林業センサスにご協力ください



平成27年2月1日現在で、全国一斉に“農林業の国勢調査”といわれる「2015年農林業センサス」が実施されます。

この調査は、今後の農林業の政策に役立てるために5年ごとに実施される極めて大切な調査です。平成27年1月中旬から農林業を営んでいる皆様のところへ調査員が訪問して、調査票に農林業の経営状況などの記入をお願いしますので、ご協力をお願いいたします。

【お問い合わせ先】 福島県統計課（TEL 024-521-7147）又は各市町村担当課

公社だより

間伐材の
造材研修会の
開催

市場動向に対応した間伐材の採材方法や間伐作業における安全作業の研修会を去る十月十日に南会津町において開催しました。

研修会は、南会津地方木材安定供給連絡会議と共催で開催し、会津流域林業活性化センターの後援を受け、福島県労働安全衛生指導員の大嶋仁氏、栗城林業(株)渡部一也氏に講師をお願いし、会津地方の森林組合、林業事業体の現場で伐採に従事されている方々と森林管理署、南会津農林事務所、町、公社の職員の名の出席を得て、午前の部は南会津町針生の南会津産木材市で、午後の部は同藤生地内の公社造林地で実施しました。

まず午前の部、市場研修として素材や合板用材等の最近の市場動向の情報や第九回南会津産木材市に出材された（公社もカラマツ材一九五立方メートルを出材）各はい山ごとに、直材と曲がり材との分け方、市場動向に



あわせた経級と材長や延べ寸の取り方、さらに有利な販売をするための経級別のはい山の作り方を研修しました。この木材市は、臨時に開催される市場であり選木機等施設がないことから、各生産現場や山土場での仕分け、運搬時の積込みによって素材の有利な販売につながる事が学べ、各参加者からは熱心な質疑がなされるなど、大変有意義な研修となりました。

また午後の部は、今年度搬出間伐を実施している公社造林地を研修場所に、伐採作業の労働安全や間伐木の採材の研修を行いました。労働安全に関しては、労働災害事故の事例を基にした伐木・造材時の安全対策、事故発生時の現場組織の対応策と併せて実際に間伐木の伐採を行い、くさびの使用、伐採方向や待避方法について学びました。その後、参加者が二組に分れ、実際に間伐木の伐倒、採材を行い、講師の指導を受け

ながら各班の採材方法に対してお互いに検討を加え、間伐材の有利な採材方法の知識・技術の向上が図られました。

当公社としては、引き続き契約地の森林の有する公益機能の維持増進を図るため、間伐等の適正な森林管理の実施とあわせて、間伐材の有効活用を図る取り組みを行ってまいります。

追記

昭和四二年に発足した「社団法人福島県林業公社」は、平成二六年四月より公益社団法人へ移行し、「公益社団法人ふくしま緑の森づくり公社」として新たな一歩を踏み出しました。



午前の部 南会津産木材市での研修風景



午後の部 現地での間伐材の伐倒、採材風景

○研修内容

- （午前の部）市場研修
 - ・ 南会津木材市場の概要
 - ・ 木材の使用用途
 - ・ はい積の留意点 等
- （午後の部）現地研修
 - ・ 採材方法（実技）
 - ・ 林業労働安全衛生 等

これまで公社が植えた森林の面積は、およそ一五、〇〇〇畝（猪苗代湖の面積の約一・四倍）。その公益的機能を貨幣価値に換算すると、一年間で約四二〇億円に相当します。



素材の価格〈工場着価格〉(9月15日現在)

(単位: m当たり千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)	0	10 (9~10)	0	9 (8~10)	0
		10~13		並	スギ	13 (10~15)	0	8 (8~8)	0	12 (11~13)	1	12 (8~15)	1
	中	14~18	3.00	並	スギ	14 (13~15)	0	12 (12~12)	0	13 (13~14)	0	13 (12~15)	0
				並	ヒノキ	14 (14~14)	△1	(0~0)	0	18 (18~18)	1	17 (14~18)	1
		6.00	並	スギ	17 (16~19)	△1	8 (8~8)	0	16 (15~18)	0	15 (8~19)	0	
			並	ヒノキ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	24 (20~28)	0	25 (20~28)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	13 (12~14)	0	12 (12~12)	0	11 (10~13)	△1	12 (10~14)	0	
		4.00	並	アカマツ	9 (9~10)	0	(0~0)	0	8 (6~10)	0	9 (6~10)	0	
		1.80	並	アカマツ	7 (5~8)	0	(0~0)	0	7 (5~8)	0	7 (5~8)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	30 (25~35)	0	30 (25~35)	0
並				米マツ	33 (33~33)	0	29 (29~29)	0	32 (28~35)	0	31 (28~35)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	27 (26~28)	0	27 (26~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	32 (28~36)	0	32 (28~36)	0	
70~90		8~14	並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	26 (23~28)	0	26 (23~28)	0	
			並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	3 (3~3)	0	3 (3~3)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	3 (3~3)	0	3 (3~3)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	7 (6~7)	0	8 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	8 (7~8)	0	8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	10 (8~12)	0	11 (10~12)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

八月の原木市場への入荷状況は、前月比五割増(前年比九割増)の一八、七六二立方メートルとなっている。販売量については、前月比三割増(前年比五割増)の一八、八三九立方メートルとなっている。九月の価格については、全体として保合が続いている。



「路線選点のための冬山踏査」

会津農林事務所 土井 剛

北海道では、林道の路線選点を行う際に「冬山踏査」を行います。冬季の方が見通しがよく選点しやすいことと、クロスカントリイ用のスキーで行くので機動性が上がる利点があります。当然雪国の会津でも行っているのかと思いきや、やっていないとのことなので簡単にはありませんが紹介させていただきます。

③ 踏査起点に着いたら、図と周囲の地形を確認しながら、計画路線に沿って歩いていきます。このとき、メリジャンクリノメーターという器具を用いて縦断勾配を測り、図上で決定した勾配なりに目印のテープを木に巻き付けながら進んでいきます。つまり、図と同じ勾配で辿っていくけば、目的地に到着するということとなります。

① まずは五〇〇〇分の一図で路線位置の検討を行います。起点から目的地までの高低差と水平距離から縦断勾配を検討し、沢地や急傾斜地等を勘案して計画線形を決めます。

ただし、実際には図面で見ると深い沢があったりするので、臨機応変に選点のし直しを行います。興味を持たれた方はぜひ一度北海道に来て体験してみてください。

② 現地踏査にて図上の路線位置の確認をします。時期は二月末〜三月中旬頃、雪が締まってスキーでも埋まらないような状態がベストです。

路線箇所の起点まで除雪されれば楽ですが、大方は未除雪の林道を数キロ歩かなくてはなりません。しかも一〇割程度も勾配があると、スタート地点にたどり着くまでが大変。そこで、スノーモービルの後部にロープを括り付け、これに掴まって引つ張られて行く



スノーモービルで目的地に到着

はなしの
ひろば

手帳

十二月一日は、「手帳の日」ビジネス手帳でおなじみの日本能率協会が制定した記念日だ。一年の振り返りと来年の手帳の準備を進める時期らしい。十月頃から本屋さんには新しい手帳や日記、家計簿が並ぶ。毎年のことながら目の前に迫る年の暮れと新年を思う。

並んでいる手帳を見ると、「風水で運が開ける手帳」「目標が達成できる手帳」「お金がたまる手帳（家計簿付）」等々かなりの豊富な内容が売り出されている。最近では十月や四月から一年が始まる手帳も見かけ、一年の始めを自分で決めることができるらしい。

しかし、新年は一月。心新たに手帳も始めたいと思うが、なかなか当初予定していた手帳づくりができない。昨年の今頃は、予定と一行日記が書けるものを買ったのだが、今、見直してみるとわずかに十日しか書いていない。が、どうしてその十日を書き残そうとしたのか不思議に思えてくる。「手帳の日」に合わせて一年の手帳を見直してみるのもまた楽しいことだ。

今年の手帳は、簡単に予定だけを書くものにしたが、「季節の小さな気づき」をメモしてみようかと思う。そんなことを思いめぐらせてみると、たかが手帳、されど手帳だ。手帳を持つ人も持たない人も、十二月一日に一年を振り返ってみると、少しは気分的にゆとりをもって年の暮れに向かえるかもしれない。

どうぞ、みなさまの年の瀬が心穏やかでありますよう、そして、新しい年明けの手帳や心の一ページ目に記す思いを、あなたはどんな言葉に託すのでしょうか。（都）

表紙の写真



「炭焼き」

第11回ふくしま森林・林業写真コンクールで特別賞を受賞した小田島守明さん（郡山市）の作品。

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・林業・緑化協会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

発行人

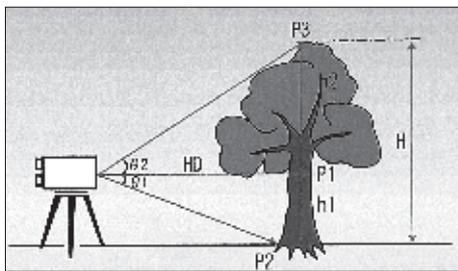
相馬 雅俊

陽光社印刷株式会社

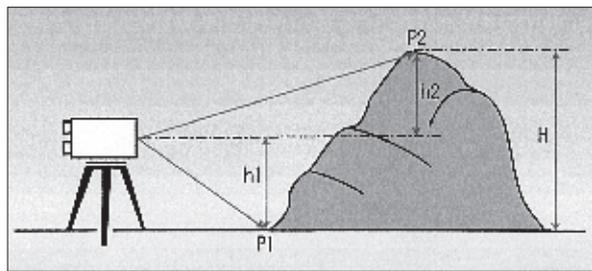
（定価 一〇八円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合



2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



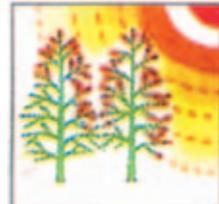
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



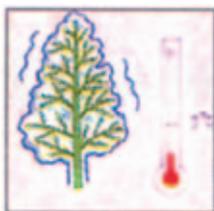
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課 Tel 024-521-7441

平成27年4月から名称が「森林保険」に変わります

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL(楽退治)
ハチノックS(携帯用)

大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート(茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



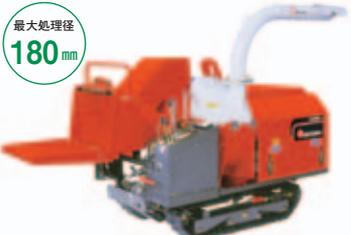
住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパシュレッダ



竹もOK!
SR3000-2
出力 **22.3kW** (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,375,000(税抜)

プロソー



GZ3900EZ
排気量 **39.1cm³** (質量4.4kg)
RSP 21BPX 967159403 ¥108,000(税抜)
95VPX 967159303
HS 25AP 967159104
91VXL 967159204
HM 21BPX 967159404
95VPX 967159305



GZ4300EZ
排気量 **43.1cm³** (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX 967160502 ¥133,700(税抜)
95VPX 967159902
HM 21BPX 967160504
95VPX 967159904

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1